第16回「まちあるき」のススメ

この連載でとりあげてきた歴史文化資源の数々は、高砂が過去から受け継いできた、貴重な「お宝」といえるでしょう。こうしたお宝は、実は読者の皆さんのごく身近に存在しているものばかりです。また、その見方さえわかれば、自分で簡単に探し出すことができるものばかりです。お宝を専門家だけではなく、市民である皆さんが自分たちで探しだすことには大きな意義があります。

たとえば、専門家が気づきにくい、地域に埋もれたお宝を発掘できるかもしれません。また、探し出したお宝の情報を地図にまとめるなどして地域の人たちに伝えれば、お宝の存在が共有できて、それだけで地域の魅力を多いに高めることができるでしょう。何よりも、地域を見つめ直し、地域にしかない歴史文化を掘り起こしていくことは、たいへん楽しくやりがいのある行為です。

さて、こうした試みが平成22年2月14日、「高砂まちあるきin曽根」として開催されました。文化財調査担当の団体による調査報告や、「高砂に残るお宝の見方・調べ方」についての講演が行われました。この後、地域からの参加者による曽根のまちあるきが行われました。曽根は塩田で栄えた歴史のある集落で、曽根天満宮を始めとする多くの寺社や古い道筋、町並みが残されています。参加者は文化財調査担当の専門家とチームを組んで曽根を一時間弱歩き回り、自分たちの力でお宝を発見してはカメラに撮影し、地図にプロットしました。その後会場に戻り、地図にまとめて、自分たちだけのお宝地図を作成しました。

文化財総合的把握モデル事業
ひと・まち・石
問合先　教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448－8255

その結果、これまで気がつかなかった視点が浮かび上がってきました。例えば、曽根の歴史的建造物には舟板を縦に貼った独特の形式が多いこと。竜山石が側溝や古い建物の土台に多く使われていること。従って、竜山石が繋がる路地をたどると、それは実は古い道筋をたどっているということ。こうした路地は曲がりくねった道や古い建物が独特の景観をつくっていること。この他にも多くの発見を生んでまちあるきは終了しました。

皆さんも自分たちの住む地域、働く地域でまちあるきを実践してみませんか？見慣れたまちでも、視点を変えて歩くことで新しい発見がきっとあるはずです。

（マヌ都市建築研究所　三浦卓也）

聞き取りをしながら曽根のお宝を探す